令和７年度第１回熊野古道協働会議　資料１－１

参考資料１

熊野古道アクションプログラムの改定について

令和７年11月４日

現行の「熊野古道アクションプログラム３」の対象期間が今年度末で終了することから、次期アクションプログラムについて、以下のとおり改定を行いたいと考えています。

１　熊野古道アクションプログラムについて

・熊野古道アクションプログラム（以下、「ＡＰ」）は、熊野古道に関わる人々及び関心を寄せる人々が、熊野古道の保全と活用のために自発的に活動するための指針です。

・平成15年３月に最初の活動指針となるＡＰを取りまとめ、以降、活動や考え方について検証し、見い出された成果と課題及び予想される社会環境の変化等をふまえ、熊野古道協働会議での議論・合意を経て改定を重ねてきました。

＜参考：これまでの改定状況＞

○ 平成15年３月　ＡＰ 策定　≪H14～H16≫

・世界遺産登録の可否が決定される平成16年度までを第１期として策定

・本編で、「基本となる考え方（３つの基本、４つの方針)」、「めざすべき姿」を示す。また、熊野古道協働会議の設置を明記

・年度編で単年度ごとのアクション（主体別）を示し進行管理

《平成16年７月「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録》

○ 平成17年７月　ＡＰ２ 策定 ≪H17～H19≫

・世界遺産登録後、平成17年度から平成19年度までを第２期として策定

・基本となる考え方（３つの基本、４つの方針）はＡＰから継続

・３つの目標（①価値に気づく、②守り伝える、③伊勢路を結ぶ）を追加記載

○ 平成20年12月　ＡＰ２ 追記編（見直し）策定 ≪H20～H26≫

・10周年（H26）までの期間を対象として策定

・５周年（H21）記念事業の指針を定める

・３つの目標（①価値に気づく、②守り伝える、③伊勢路を結ぶ）は継続

・現状と今後の課題、「３つの輪づくり」（外の輪、内の輪、保全と活用の輪）の取組を追記

○ 平成27年３月　ＡＰ３ 策定 ≪H28～R7≫

・今後10年の活動指針、５年程度の取組の方向性

・３つの目標（①価値に気づく、②守り伝える、③伊勢路を結ぶ、地域を活かす)

○ 令和４年３月　ＡＰ３ 追記編（見直し）策定 ≪R4 ～R7≫

・３つの目標（①価値に気づく、②守り伝える、③伊勢路を結ぶ、地域を活かす）は継続

・活動等を検証のうえ、取組の追記、目標値の設定

２　改定の考え方

ＡＰ３追記編策定後の取組や考え方を検証し、成果と課題及び社会環境の変化（別紙１参照）等をふまえるとともに、登録25周年（R11）、式年遷宮（R15）、登録30周年（R16）を見据え、以下のとおり活動指針や取組の方向性をまとめたいと考えています。

①対象期間

・活 動 指 針：　令和８年度から令和17年度まで（10年間）

・取組の方向性：　令和８年度から令和12年度まで（５年間）

②構　成

ＡＰ３追記編の構成（別紙２参照）を継続

③目　標

インバウンドの増加等の社会環境の変化や、保全活動に係る担い手不足などの引き続き取り組むべき課題、三重県熊野古道活用プランの内容もふまえながら検討していく。

３　改定のプロセス

①熊野古道関係者及び来訪者へのアンケート調査、関係者へのヒアリング等を実施し、これらをふまえ、検討会議で見直しの方向性について意見交換を行います。

②検討会議により、ＡＰ３の活動について検証し、見出された成果と課題及び今後予想される社会環境の変化等をふまえた「改定案」を作成します。

③その後、「改定案」を熊野古道協働会議で協議いただき、次期ＡＰを策定します。

《ポイント》

○　熊野古道協働会議として策定

○　検討会議で「改定案」を作成

○　関係者の意見を広く聴取（資料１－３、１－４参照）

○　来訪者の意見を参考とする

○　伊勢神宮から熊野三山までの伊勢路全体を対象とする

〔スケジュール案〕

令和７年	10月	関係者アンケート・ヒアリング
	10～11月	アンケート・ヒアリング結果取りまとめ
	11月４日	**第１回熊野古道協働会議**
		・ＡＰの改定等について説明、意見交換
	11月18日	**第１回検討会議**
		・ＡＰ改定の進め方等について説明、意見交換
	12月中旬	**第２回検討会議**
		・次期ＡＰ中間案の提示、内容検討
令和８年	**１月下旬**	**第３回検討会議**
		・次期ＡＰ最終案の提示、内容検討
	３月中旬	**第２回熊野古道協働会議**
		・次期ＡＰ最終案の提示、協議
	３月下旬	**次期ＡＰの策定**

別紙１

現行「熊野古道アクションプログラム３追記編」策定後の主な社会情勢の変化の例

Ａ 主なトピック

１　熊野古道世界遺産登録 20 周年

令和６年７月に、熊野古道伊勢路が世界遺産登録 20 周年を迎え、県や市町、関係団体が 20 周年を記念したイベントやプロモーション等に取り組みました。周年事業を契機として、更なる誘客が期待されています。

２　ツキノワグマの出没増加

近年、ツキノワグマの出没が増加しており、本県においても「クマアラート」を令和６年８月から導入し注意喚起を行うなど、さまざまな人身被害の未然防止に向けた取組を行っています。

３　国道４２号「新宮紀宝道路」の開通

令和６年 12 月に、三重県と和歌山県をつなぐ国道４２号「新宮紀宝道路」が開通しました。道路整備が一層進むことで、遠方からの来訪者の増加や、熊野古道伊勢路の保全と活用に取り組んでいる奈良県や和歌山県との一層の連携が期待されています。

４　大阪・関西万博の開催

令和７年４月から 10 月まで大阪市において開催された国際博覧会「大阪・関西万博」では国内外から多くの来場者が訪れ、三重県ブースにおいては熊野古道伊勢路の映像体験や情報発信などを行っており、これらの機会を通じて、今後の誘客が期待されます。

Ｂ 中長期的な対応が必要になると思われるもの

５　「世界遺産の巡礼道を生かした協力・連携に関する覚書」の締結などによるスペイン・バスク自治州との連携促進

世界遺産の巡礼道を生かした情報発信と交流に協力・連携を行うことを目的として、令和元年に三重県とスペイン・バスク自治州との間で覚書（MOU）を締結しました。また、令和５年には、覚書に基づいて今後も引き続き協力・連携を行うことを確認する「確認書」を交わしました。

今後の連携の促進や交流等が期待されています。

６　保全団体メンバーの高齢化・担い手不足

保全団体メンバーの高齢化がさらに進行していることから、新たな担い手の確保や外部の力を活用していく必要性が一層高まってきています。

７　若い世代の「担い手」育成の必要性

東紀州地域全体で人口減少が続いており、保全活動だけでなく地域の持続的発展のため、若い世代の「担い手」づくりが一層重要となっています。

８　保全活動の財源確保

保全活動を継続していくための財源を確保していくことが必要です。例えば、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの普及により、資金調達の可能性が増え、取組の幅が広がることが期待されます。

９　東紀州地域に誘客するための各種集客交流施設の一層の活用

東紀州地域や近隣に、始神テラス、七里御浜ツーリストインフォメーションセンター、外資系ホテル、VISON（ヴィソン）といった新たな集客交流施設が整備され、東紀州地域へ誘客できる可能性が向上してきているとともに、リニューアルした鬼ヶ城センターなどの既存の観光施設や、伊勢路アルベルゲ協議会（*）参加宿泊施設、熊野古道センター、里創人熊野倶楽部などとの連携による相乗効果なども期待されます。

（*）伊勢から熊野までの「連続した歩き旅」を目的とした来訪者に対応するため発足した伊勢路沿線の宿泊施設のネットワーク

10　ＳＤＧｓ（*）の浸透

世界レベルでＳＤＧｓの考え方が浸透してきており、熊野古道伊勢路の保全と活用においてもＳＤＧｓをしっかりと意識して取り組んでいく必要があります。

（*）Sustainable Development Goals の略で、日本語訳は「持続可能な開発目標」です。2030 年までに達成すべき国際社会全体の開発目標で、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現をめざすこととされており、17 の目標と、その下にある 169 のターゲットで構成されています。

〈例〉　目標 11　　住み続けられるまちづくりを

ターゲット 11.4　　世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

11　デジタルトランスフォーメーション（*）の進展

デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の進展により、居ながらにして多種多様な情報を得ることができます。また、この技術を活用することにより、実際の来訪が難しい障がい者や高齢者等の方々にも、熊野古道伊勢路の魅力に触れてもらえることもできます。

（*）デジタル技術を活用することにより、時間短縮や付加価値の向上を実現することをいいます。日常生活では、スマートフォンやメールなどもその一つです。

12　新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症が令和５年５月に５類感染症へ移行され、熊野古道伊勢路を訪れる来訪者数は回復傾向にあります。コロナ禍の影響による自然志向の高まりやライフスタイルの変化などの視点も加えていく必要があります。

13　多雨化や大雨災害、猛暑の影響

地球温暖化により、近年、全国的に多雨、大雨災害の頻度が高まっています。また、猛暑日の増加により熱中症等のリスクが高まり健康被害を引き起こすなど、熊野古道伊勢路の来訪者にも影響を及ぼしています。

など

今後 10 年の間に予定されている県内の行事等について

令和８年　　三重県誕生１５０周年

令和８年４月 18 日に三重県誕生 150 年を迎えることから、県では、豊かな自然や先人たちが築き上げてきた歴史・文化・産業、さまざまな困難を乗り越えてきた経験を次世代へつなぎ、未来に向けた県内の一体感を醸成するための記念事業を実施します。

令和 11 年　　熊野古道世界遺産登録 25 周年

熊野古道伊勢路が世界遺産登録 25 周年を迎えることから、周年事業を契機として伊勢路への更なる誘客が期待されます。

令和 15 年　　第 63 回神宮式年遷宮

20 年に一度、正殿以下すべての社殿や神宝・装束に至るまで、そのすべてを造り替え新調し、新しい正殿に御神体を遷すという神宮最大の神事であり、国内外から多くの方々が伊勢神宮を訪れます。

令和 16 年　　熊野古道世界遺産登録 30 周年

熊野古道伊勢路が世界遺産登録 30 周年を迎えるとともに、前年の式年遷宮を契機として伊勢路への更なる誘客が期待されます。

令和 17 年　　第８９回国民スポーツ大会

令和 17 年に、第８９回国民スポーツ大会が三重県において開催予定であり、スポーツ関係者をはじめ多くの方々の来県が見込まれます。

別紙２

「熊野古道アクションプログラム３追記編」の構成

はじめに（「熊野古道アクションプログラム」とは）

１　追記編策定の概要

1-1　策定の目的
1-2　策定方法
1-3　策定プロセス
1-4　対象期間
1-5　運営体制と進行管理

２　現状と課題

2-1　現状とこれまでの成果
2-2　今後見込まれる社会環境の変化
2-3　課題

３　めざす姿

４　活動指針と具体的な取組

目標１　価値に気づく
目標２　守り伝える
目標３　伊勢路を結ぶ、地域を活かす
（付表１）関係者に期待される役割整理表
（付表２）めざす姿の実現に向けた取組の方向性

熊野古道伊勢路　資料編

資料１　熊野古道伊勢路概略図
資料２　「紀伊山地の霊場と参詣道」「熊野古道伊勢路」シンボルマーク・デザインガイド

世界遺産　資料編

１　世界遺産とは
２　日本の世界遺産
３　世界遺産の価値基準
４　「紀伊山地の霊場と参詣道」と三重の熊野古道
５　世界遺産の保全について
６　紀伊山地の参詣道ルール

参考資料２

参考資料　**熊野古道アクションプログラムの経緯について**

熊野古道アクションプログラムは、熊野古道に関わる人々及び関心を寄せる人々が、熊野古道の保全と活用のために自発的に活動するための指針です。

平成１５年３月　【熊野古道アクションプログラム の策定】

≪第１期（平成 14 年度～16 年度）、策定　三重県≫

世界遺産登録をめざす「紀伊山地の霊場と参詣道」の重要な構成要素である「熊野参詣道」等について、将来に向けてその価値を伝えていくとともに、地域におけるかけがえのない資源として、地域自らが地域づくりに活用していくために策定しました。

≪３つの基本≫

①独自性の原則　②総合的な環境保全　③内発的な地域振興

≪４つの方針≫

①自主的に行動する ②多くの仲間と協働する ③じっくりと取り組む
④あるものを活用する

なお、プログラム策定を機会に、熊野古道に関する様々な活動を行なっている関係者が一堂に会し、意見交換や調整を行なっていく「熊野古道協働会議」を設置（H16.2）しました。

平成１６年７月７日　　熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、第 28 回世界遺産委員会において世界遺産（文化遺産）に登録される

平成１７年７月【熊野古道アクションプログラム２ の策定】

≪第２期（平成 17 年度～19 年度）、策定　熊野古道協働会議・三重県≫

平成１５年３月に策定した第１期アクションプログラムから３年が経過したことから、世界遺産登録後の状況を踏まえて、「熊野古道アクションプログラム２」を策定しました。

≪３つの目標≫　第２期策定事項

①**価値に気づく**･･･熊野古道の本質を理解することから始め、それに気づいた人から周りに、そして次の世代へ伝えていきます。

②**守り伝える**･･･熊野古道は自然、生活、産業等に密接にかかわりを持つ文化遺産です。その特性を踏まえて、地域が一体となって保全に努め、後世に伝えていきます。

③**伊勢路を結ぶ**･･･熊野古道が世界遺産として認められた価値の本質は、伊勢から熊野までのすべての道程にあります。歩ける世界遺産。熊野古道の持つ本来の意味を鑑みて、まず熊野古道を通して歩くことができる施策に取り組んでいきます。

平成２０年１２月【熊野古道アクションプログラム２ 追記編 の策定】

≪第３期（平成 20 年度～26 年度）、策定　熊野古道協働会議≫

平成 18 年３月に策定した第２期アクションプログラムから３年が経過し、活動や考え

方を検証するとともに、世界遺産登録５周年記念事業の指針や、10 周年までの関係者が取り組む活動指針として「熊野古道アクションプログラム２　追記編」を策定しました。

≪熊野古道アクションプログラム２に追記したこと･･･「３つの輪づくり」≫

①**保全と活用の輪づくり･･･**　大切な価値をまずは守ることから考え、うまく活用します。保全と活用を調和させること、すなわち「保全と活用の輪づくり」が必要です。

②**内の輪づくり･･･**　これまで関心の薄かった方々や若年層等､次世代を担う方々に、様々な活動の輪に加わっていただくこと､横のつながりを深めることが大切です。

③**外の輪づくり･･･**　多くの方々に関心を持っていただいたり来訪いただいたりすることや､地域の方々との交流により､熊野の守るべき本質に気づく機会をつくることが大切です。

平成２７年３月【熊野古道アクションプログラム３　の策定】
≪第４期（平成 27 年度～令和６年度)、策定　熊野古道協働会議≫

世界遺産登録から 10 年を迎え、これまでの活動や考え方について検証し見いだされた成果と課題、および今後予想される社会環境の変化等を踏まえて、今後 10 年の活動指針、５年程度の取組の方向性をとりまとめました。

≪活動指針≫

①価値に気づく、②守り伝える、③伊勢路を結ぶ、地域を活かす

≪具体的な取組≫

①本質の追求、地域活動や社会教育、学校教育、情報発信、拠点施設の活用
②守り伝える体制、啓発活動、文化財保護、文化的景観の保全
③古道沿いの環境整備、情報発信、踏破の推進、地域の賑わい創出、地域間連携

令和４年３月【熊野古道アクションプログラム３　追記編　の策定】
≪第５期（令和４年度～令和７年度)、策定　熊野古道協働会議≫

平成 27 年３月に策定した熊野古道アクションプログラム３から６年が経過し、この間の社会環境の変化や取組の進展を踏まえた見直しを行い、令和６年の世界遺産登録 20 周年に向けて、関係者が取り組む新たな活動指針としてとりまとめました。

≪活動指針≫

①活動指針はアクションプログラム３を継続
②期間中の具体的な目標として「数値目標」や「活動事例目標」を新たに追記
・持続可能な保全体制の構築をめざした工程表の作成
・伊勢路踏破者数　年間 1,000 人
・スタンプ箇所にある二次元コードアクセス数　年間 100,000 アクセス

・Google マップ等の地図アプリへの峠や街道、施設の登録を増やすとともに、口コミ数・評価向上に取り組む

≪具体的な取組≫

新たな取組を追記

【追記した主な取組概要】

・スペイン・バスク自治州との連携
・拠点施設の機能として、県外への情報発信に関する取組強化
・企業の協力などによる新たな担い手確保策の積極的導入や財源確保
・持続可能な保全体制の仕組みを検討
・案内表記に係るガイドラインの策定
・効果的な情報発信（スマートフォン用アプリ、SNS の活用等）
・歩く人向けの宿泊施設の情報集約、ネットワーク化と PR
・二次交通の向上対策の検討　など

三重県熊野古道活用プランの概要

参考資料３

１ 策定の趣旨

●熊野古道伊勢路を効果的に活用した地域経済の振興、観光インフラの整備等、県として取組が必要な課題が存在する。
●世界遺産登録20周年を契機として、これまでの県の取組を検証しつつ、観光インフラ整備、魅力の発信等、熊野古道アクションプログラムの「めざす姿」の実現に向けて、県の取組を明らかにするために策定。

１ 計画期間

令和７年度から１１年度までの５カ年計画

〇熊野古道アクションプログラムの「めざす姿」（３追記編抜粋）
「歩き旅」を象徴的なイメージとしながら、さまざまな目的で多くの人々が伊勢路を訪れ、それが地域の活力になっています。

２　現状と課題

（１）観光インフラ整備

- 案内標識は古道沿線約1,500箇所に設けられているが、内容が不統一で老朽化や多言語に未対応のものが多く存在する
- 伊勢路沿線のトイレは一定区間ごとに確保されているが、老朽化や洋式化されていないなど、快適な使用に課題のあるトイレが存在する
- ＪＲ、バス停留所から各峠道へのアクセスに課題がある
- 道路網の整備に伴い自家用車利用による来訪者の増加が想定される
- 古道歩きの後に地域の観光施設などへの誘導がなく、地域経済への効果が低い
- 高付加価値の宿泊施設（インバウンド向けを含む）が少ない

（２）「魅力」の発信

- 熊野古道伊勢路は、伊勢神宮と熊野三山の二大聖地をつなぐ、世界でも珍しい「道」の世界遺産である
- 熊野カルデラに由来する巨岩、巨石に触れ、人為と自然が見事に調和した森林地帯を実感できる「絶景」の道である
- 世界遺産を構成する奈良県、和歌山県と連携を図りながら、伊勢路の魅力発信を効果的に進める必要がある
- 県立熊野古道センターの常設展示は、開館後のインバウンドの増加等の社会環境の変化をふまえ見直しを図る必要がある

（３）熊野古道の保全

- 保全団体は10名以下の団体が約６割であり、高齢化が進行し 担い手が不足
- 熊野古道サポーターズクラブ会員は約1,900名いるものの、保全活動への参加は５％程度
- 保全活動の財源は主に寄付金で賄われているが活動資金が不足

３　取組の方向性

（１）観光インフラ整備

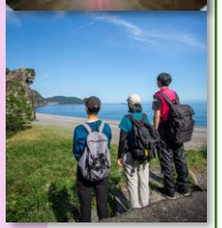
- 「熊野古道伊勢路 案内等表記ガイドライン」に沿った多言語対応の案内標識の整備（新設・更新）にかかる支援
- 新たに設けた補助制度によりトイレの洋式化などを推進
- 二次交通の利便性向上のためＪＲ特急南紀と連動する地元バス、タクシー事業者と連携した調査・実証事業の実施
- 自家用車利用を想定した峠登り口付近の駐車場の状況調査を行い、アクセス方法の検討
- 市町及び観光・商工団体などと連携した地域の観光施設等への誘客促進
- 高付加価値の宿泊施設（インバウンド向けを含む）の誘致

〔令和11（2029）年度の目標〕
・案内標識・トイレの整備が進むとともに、二次交通にかかる利便性の向上が図られています。
・案内機能にかかる方向性を明らかにします。

（２）「魅力」の発信

- 伊勢路を「二大聖地を結ぶ絶景の道」として、魅力発信やプロモーションを推進
- 東紀州地域振興公社、市町及び観光・商工団体などと連携し、峠ごとの魅力や周遊コース等の情報発信
- 世界遺産を構成する奈良県、和歌山県と連携した効果的なプロモーション、案内機能の強化
- 県立熊野古道センターの常設展示のリニューアルによる魅力発信、多言語化、ＤＸ化による集客交流の強化

〔令和11（2029）年度の目標〕
・熊野古道伊勢路の年間来訪者数　令和８年度　44万人
（令和９年度以降の評価指標や目標値についてはあらためて検討）



（３）熊野古道の保全

県が市町等と連携して持続可能な保全の仕組みを検討
- 熊野古道サポーターズクラブ会員の参画促進
- 企業、団体、外部ボランティアの受入れによる担い手確保
- ふるさと納税、クラウドファンディング、企業や来訪者による支援など、新たな財源確保策の検討
- 次世代継承のための啓発活動や体験機会の充実

〔令和11（2029）年度の目標〕
・熊野古道伊勢路全域で持続可能な保全の仕組みが構築されています。

参考資料４

二次元コードから
でも回答できます

熊野古道アクションプログラムの見直しにかかるアンケート

１「熊野古道アクションプログラム3追記編」の3つの目標についての評価

熊野古道アクションプログラム3追記編（以下、「AP3追記編」）の「活動指針と具体的な取組」について、AP3追記編策定時（令和4年3月）と比較した評価を以下により、お答えください。

（1）目標1 「価値に気付く」

将来にわたって熊野古道伊勢路を保全・活用していくためには、まず地域住民が熊野古道の文化的景観としての価値を正しく理解し、日常的に関わることで、古道や自らが住む地域に愛着と誇りを持つことが重要です。また、次世代にもその価値を伝えていく取組を推進していくために、子どもたちが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりが不可欠です。

さらに、熊野古道伊勢路の価値を正しく情報発信し、また相互交流を図っていくことにより、地域外においても熊野古道伊勢路の価値の気づきを促し、文化的景観への理解、さらに保全・活用への意識の醸成を図っていきます。

① AP3追記編策定後、現在まで、「価値に気づく」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。
（ア）から（オ）の活動テーマごとの評価と全体的な評価について、それぞれ当てはまる番号を〇で囲んでください。

主な活動テーマ	1 前進した	2 やや前進した	3 変化なし	4 やや後退した	5 後退した	6 わからない
（ア）本質の追及 （伊勢路に係る歴史や伝承等の研究の継続、大学との連携等による研究の強化、シンポジウムの開催等を通じた取組内容や成果の発信、スペイン・バスク自治州との連携など）	1	2	3	4	5	6
（イ）地域活動や社会教育 （地域住民が伊勢路や地域の歴史・文化を学んだり歩いたりする機会を増やす取組など）	1	2	3	4	5	6
（ウ）学校教育 （学校行事における古道歩き、学ぶ機会の充実など）	1	2	3	4	5	6

(エ)情報発信 （インターネットや出版物による本質的な価値の発信）	1	2	3	4	5	6
(オ)拠点施設の活用 （古道センターでの情報・資料の収集や発信、来訪者と地域住民との交流、周辺地域や関係施設との連携、県外への情報発信の強化など）	1	2	3	4	5	6
◆「価値に気づく」ための取組の全体的な評価	1	2	3	4	5	6

② 今後は「価値に気付く」ための取組をどうしていくのが地域にとって良いと思われますか。

1. 強化する	2. やや強化する	3. 現状維持	4. やや縮小する	5. 縮小する

③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。

（２）目標２　「守り伝える」

熊野古道伊勢路の保全は、主に地域の人々によって継続的に行われてきましたが、保存関係者の高齢化に伴う担い手確保については、本協働会議に参画するすべての人がひとしく共有している喫緊の課題です。

次世代を担う新たな担い手を、地域の中だけでなく地域外からも含め、育成や確保していく必要があり、企業の CSR（社会的責任）活動による支援なども組み合わせる必要があります。また、財源についても、クラウドファンディングなどの新たな確保策を含め、あらゆる手法の導入を試みることも求められます。

保全団体のそれぞれの状況に応じて、多様な手法の中から選択し組み合わせて体制が構築できるように、関係者がさまざまな手法を共通に理解したうえで、検討していく必要があります。

伊勢路の本質的価値を伝え「現代の巡礼道」を目指すためにも、「保全」は本質的価値の基礎となるものです。

① AP3追記編策定後、現在まで、「守り伝える」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。
(ア)から(エ)の活動テーマごとの評価と全体的な評価について、それぞれ当てはまる番号を〇で囲んでください。

主な活動テーマ	1 前進した	2 やや前進した	3 変化なし	4 やや後退した	5 後退した	6 わからない
(ア)守り伝える体制 （企業の CSR 活動等の新たな担い手確保策の導入、古道の見回りや保全状況の情報収集および提供、保全活動への参加促進、語り部の担い手養成機会の充実、保存会、語り部の会等の関係団体間の連携、地域内外からの支援体制の強化、保全活動に係る資金確保など）	1	2	3	4	5	6
(イ)啓発活動 （活動の顕彰、保存会や語り部の活動を知り、体験する機会の充実）	1	2	3	4	5	6
(ウ)文化財保護 （文化財の適切な保存・管理、災害時の迅速かつ的確な復旧対応、追加登録に向けた活動の推進）	1	2	3	4	5	6

(エ)文化的景観の保全（良好な景観の維持・形成、知識・理解の向上のための有識者を招いたセミナー開催等、他の世界遺産登録地域との情報交換など)	1	2	3	4	5	6
◆「守り伝える」ための取組の全体的な評価	1	2	3	4	5	6

② 今後は、「守り伝える」ための取組をどうしていくのが地域にとって良いと思われますか。

1. 強化する　2. やや強化する　3. 現状維持　4. やや縮小する　5. 縮小する

③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。

（３）目標３　「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」

熊野古道伊勢路は、熊野へ向かう参詣者が一歩一歩たどった「熊野参詣道」の 1 つです。現代においても、伊勢から熊野までを「通して歩く」ことによって、熊野古道の本質的な価値をより理解し、体感できるものと考えます。熊野古道伊勢路を訪れた人が、安全・安心に歩くことができ、また伊勢路を中心とした周辺地域の歴史や文化、風土を体感し、学ぶことができる環境整備が必要です。さらに、来訪者と地域住民の交流を促進することや来訪者の周遊性を高めることにより、地域の賑わい創出を図るとともに、来訪者が繰り返し訪れたいと思う地域づくりに向けて、関係者が役割を分担しながら取組を進めます。

① AP3追記編策定後、現在まで、「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。
（ア）から（オ）の活動テーマごとの評価と全体的な評価について、それぞれ当てはまる番号を〇で囲んでください。

主な活動テーマ	1 前進した	2 やや前進した	3 変化なし	4 やや後退した	5 後退した	6 わからない
（ア）古道沿いの環境整備 （統一感のある案内板・道標の設置やトイレ・休憩施設等の整備、伊勢路全体のマップ作成などの情報提供、バリア情報の調査など）	1	2	3	4	5	6
（イ）情報発信 （SNS、アプリなどを活用した情報発信、古道にまつわる伝承や文化財の情報提供など）	1	2	3	4	5	6
（ウ）踏破の推進 （踏破向けの情報提供、踏破ウォークイベントによるPR、スタンプラリー等の仕掛けづくり、宿泊施設の情報集約とネットワーク化、歩く旅人の交流の促進など）	1	2	3	4	5	6
（エ）地域の賑わい創出 （周辺スポットや体験プログラムの情報発信、特産品・名物の発掘・創出、地域住民のおもてなしの意識啓発、宿泊・休憩施設の充実とPR、交通アクセス・二次交通の充実、海外に向けた情報発信や受入態勢の充実など）	1	2	3	4	5	6

(オ)地域間連携 (伊勢から東紀州地域までの保全や活用に取り組む関係者間の連携強化、三県における情報共有や連携強化など)	1	2	3	4	5	6
◆「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」ための取組の全体的な評価	1	2	3	4	5	6

② 今後は、「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」ための取組をどうしていくのが地域にとって良いと思われますか。

1. 強化する　2. やや強化する　3. 現状維持　4. やや縮小する　5. 縮小する

③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。

2 今後の取組方向について

これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。

また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。

３ その他

「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。

あなたの所属する団体名、お名前、住所、連絡先をご記入ください。
（※内容をさらに詳しくお伺いする場合や、今後の連絡などに利用させていただきます）。

所属する団体名：

お名前：

住所：〒

連絡先：電話　　E-mail

いただきました貴重なご意見等は、今後の取組の参考にさせていただきます。また、個人・団体が特定されない形で集計した上で、熊野古道協働会議及び関連する会議での検討資料として活用させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

【参考資料】

現行「熊野古道アクションプログラム３追記編」策定後の主な社会情勢の変化の例

Ａ 主なトピック

１　熊野古道世界遺産登録 20 周年

令和６年７月に、熊野古道伊勢路が世界遺産登録 20 周年を迎え、県や市町、関係団体が 20 周年を記念したイベントやプロモーション等に取り組みました。周年事業を契機として、更なる誘客が期待されています。

２　ツキノワグマの出没増加

近年、ツキノワグマの出没が増加しており、本県においても「クマアラート」を令和６年８月から導入し注意喚起を行うなど、さまざまな人身被害の未然防止に向けた取組を行っています。

３　国道４２号「新宮紀宝道路」の開通

令和６年 12 月に、三重県と和歌山県をつなぐ国道４２号「新宮紀宝道路」が開通しました。道路整備が一層進むことで、遠方からの来訪者の増加や、熊野古道伊勢路の保全と活用に取り組んでいる奈良県や和歌山県との一層の連携が期待されています。

４　大阪・関西万博の開催

令和７年４月から 10 月まで大阪市において開催された国際博覧会「大阪・関西万博」では国内外から多くの来場者が訪れ、三重県ブースにおいては熊野古道伊勢路の映像体験や情報発信などを行っており、これらの機会を通じて、今後の誘客が期待されます。

Ｂ 中長期的な対応が必要になると思われるもの

５　「世界遺産の巡礼道を生かした協力・連携に関する覚書」の締結などによるスペイン・バスク自治州との連携促進（

世界遺産の巡礼道を生かした情報発信と交流に協力・連携を行うことを目的として、令和元年に三重県とスペイン・バスク自治州との間で覚書（MOU）を締結しました。また、令和５年には、覚書に基づいて今後も引き続き協力・連携を行うことを確認する「確認書」を交わしました。

今後の連携の促進や交流等が期待されています。

６　保全団体メンバーの高齢化・担い手不足

保全団体メンバーの高齢化がさらに進行していることから、新たな担い手の確保や外部の力を活用していく必要性が一層高まってきています。

７　若い世代の「担い手」育成の必要性

東紀州地域全体で人口減少が続いており、保全活動だけでなく地域の持続的発展のため、若い世代の「担い手」づくりが一層重要となっています。

８　保全活動の財源確保

保全活動を継続していくための財源を確保していくことが必要です。例えば、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの普及により、資金調達の可能性が増え、取組の幅が広がることが期待されます。

９　東紀州地域に誘客するための各種集客交流施設の一層の活用

東紀州地域や近隣に、始神テラス、七里御浜ツーリストインフォメーションセンター、外資系ホテル、VISON（ヴィソン）といった新たな集客交流施設が整備され、東紀州地域へ誘客できる可能性が向上してきているとともに、リニューアルした鬼ヶ城センターなどの既存の観光施設や、伊勢路アルベルゲ協議会（*）参加宿泊施設、熊野古道センター、里創人熊野倶楽部などとの連携による相乗効果なども期待されます。

（*）伊勢から熊野までの「連続した歩き旅」を目的とした来訪者に対応するため発足した伊勢路沿線の宿泊施設のネットワーク

10　ＳＤＧｓ（*）の浸透

世界レベルでＳＤＧｓの考え方が浸透してきており、熊野古道伊勢路の保全と活用においてもＳＤＧｓをしっかりと意識して取り組んでいく必要があります。

（*）Sustainable Development Goals の略で、日本語訳は「持続可能な開発目標」です。2030 年までに達成すべき国際社会全体の開発目標で、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現をめざすこととされており、17 の目標と、その下にある 169 のターゲットで構成されています。

〈例〉　目標 11　　住み続けられるまちづくりを

ターゲット 11.4　　世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

11　デジタルトランスフォーメーション（*）の進展

デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の進展により、居ながらにして多種多様な情報を得ることができます。また、この技術を活用することにより、実際の来訪が難しい障がい者や高齢者等の方々にも、熊野古道伊勢路の魅力に触れてもらえることもできます。

（*）デジタル技術を活用することにより、時間短縮や付加価値の向上を実現することをいいます。日常生活では、スマートフォンやメールなどもその一つです。

12　新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症が令和５年５月に５類感染症へ移行され、熊野古道伊勢路を訪れる来訪者数は回復傾向にあります。コロナ禍の影響による自然志向の高まりやライフスタイルの変化などの視点も加えていく必要があります。

13　多雨化や大雨災害、猛暑の影響

地球温暖化により、近年、全国的に多雨、大雨災害の頻度が高まっています。また、猛暑日の増加により熱中症等のリスクが高まり健康被害を引き起こすなど、熊野古道伊勢路の来訪者にも影響を及ぼしています。

など

今後 10 年の間に予定されている県内の行事等について

令和８年　　三重県誕生１５０周年

令和８年４月 18 日に三重県誕生 150 年を迎えることから、県では、豊かな自然や先人たちが築き上げてきた歴史・文化・産業、さまざまな困難を乗り越えてきた経験を次世代へつなぎ、未来に向けた県内の一体感を醸成するための記念事業を実施します。

令和 11 年　　熊野古道世界遺産登録 25 周年

熊野古道伊勢路が世界遺産登録 25 周年を迎えることから、周年事業を契機として伊勢路への更なる誘客が期待されます。

令和 15 年　　第 63 回神宮式年遷宮

20 年に一度、正殿以下すべての社殿や神宝・装束に至るまで、そのすべてを造り替え新調し、新しい正殿に御神体を遷すという神宮最大の神事であり、国内外から多くの方々が伊勢神宮を訪れます。

令和 16 年　　熊野古道世界遺産登録 30 周年

熊野古道伊勢路が世界遺産登録 30 周年を迎えるとともに、前年の式年遷宮を契機として伊勢路への更なる誘客が期待されます。

令和 17 年　　第８９回国民スポーツ大会

令和 17 年に、第８９回国民スポーツ大会が三重県において開催予定であり、スポーツ関係者をはじめ多くの方々の来県が見込まれます。

参考資料５

熊野古道アクションプログラムの見直しにかかるアンケート

意見等一覧

目標１　「価値に気付く」
③　②でそうお答えになった理由は何ですか。・・・・・・・・・・・・・・・　P1

目標２　「守り伝える」
③　②でそうお答えになった理由は何ですか。・・・・・・・・・・・・・・・　P7

目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」
③　②でそうお答えになった理由は何ですか。・・・・・・・・・・・・・・・　P12

２　今後の取組方向について
　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。
　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。・・・・・・・　P17

３　その他
　「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。・・・・・・・・・・・・　P26

※ 意見等は、個人情報等に配慮し一部加工しています。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
	○		長期的に継続して、周知・普及活動を続けていくことが重要。
	○		熊野古道についての価値や学ぶ機会がほとんどないため、子どもや親達、そしてもっと高齢の方々までが保存の必要性を理解していない。北部地域には熊野古道伊勢路以外にも継承されてきた文化があるので、日本の文化として残していくべき価値をもっと分かりやすく話していく必要があると思う。
○			地域の高校生に保全活動を通じて熊野古道の価値に気付いてもらい、伝えていく。この活動を継続していきたい。
○			松阪市や玉城町の団体様が、女鬼峠ウォーキングを企画されて、立ち寄っていただく機会が増えてきましたが、興味のない方は、まだまだ多いと思います。
	○		伊勢路をもっとPRすべき 熊野古道＝和歌山という認識が多いから
○			価値がわからないから興味をもたない。
	○		熊野古道を保全し、維持していくためには、古道を利用してくれる人が沢山いる事が大切です。そのためには、熊野古道の普遍的な価値を高める必要があります。
	○		今後の人口減少や担い手の高齢化門団を鑑みた場合、取組みの「強化」を心がけることが肝要と思われる。そのため、これまでのように市町が個々に対応するのではなく、共通認識のもと協働できる仕組みを作らなければならない。
○			世界遺産は、過疎の地域にとって、若者が稼げる資源であり、若い人たちが地元を離れなくてもよい様にしてあげられる重要なコンテンツであるから。
	○		本質的価値の解釈が硬直的で正しい価値が認識できていると感じられない。三重県の観光部署や知事の発言等は和歌山県がすすめる平安時代に熊野を目指していた道の価値としての認識しかないように感じられる。伊勢路が最も輝ける価値認識とは現在も名残をとどめる江戸時代の巡礼路（桑名→伊勢→熊野→西国（岐阜））を三重県北部から一体として評価すべきであると考えている。和歌山県側で成功しているかもしれないが平安時代の貴族の道に寄せずに、県内に現状残る資源を大切にもっと評価して伊勢参宮からの西国巡礼と捉えるのが伊勢路にとって最も得である。 そもそも、伊勢路は速玉大社で終了という認識が間違いである。 もっと和歌山県と連携すべき。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
	○		熊野古道センターの活動が、地域内外からの来訪者及びインバウンドに対して、交流や情報発信に大きく寄与していると感じる。 一方で、地域住民にとっては熊野古道が昔から「当たり前」にあるため、その価値を感じていない。 新型コロナが収束した今でも、地域のイベント等において熊野古道の情報発信が積極的に行われていないと感じる。 教育現場においても、社会の授業の題材になったり、以前のように遠足で熊野古道を歩いていないと思われる。
	○		昨年世界遺産登録20周年という事で各地でイベントが行われました。周年を終えた今、次の10年後に向けて、内外に向けた「価値に気付く」ための取組を強化する必要があると考える。
○			東紀州の一番の宝を活性化させ本当の宝にするためです
		○	地域住民は無関心、市町で行うイベントに熊野古道関係も加える。
○			正直なところ、近ごろ、そちらまで足を運ぶ時間がなく、答えることができないのです。 いつも案内をありがとうございます。 広く北勢の方々にも知ってほしいです。
○			学校教育や情報発信を行うことにより地域の歴史を認識するとともに自らもその価値を知ることができ、保護活動や本質の追求といったことにつなげることができるため。
	○		熊野古道について学ばせる学校教育は、世界遺産登録時（二十数年前）よりも弱いように感じる。 登録時は、子どもを通じて家族も熊野古道について学ぶことができたが、今は聞く機会がないように感じる。 子どもの数が減っているので、以前よりも伝える重要性は高いと思われるので残念。
		○	昨年度（世界遺産登録20周年目の年）はとても「価値に気づく」ことに前進したと感じていたのですが、行政関係者の異動などの職員環境変化によっては昨年度まで出来上がっていたもの、進んでいたものが初期の段階に戻ってしまうようなこともあるため、強化は今後もしてほしいと感じています。
○			地域住民が価値を気付くことで、次世代にも繋がっていくと考える。
○			「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録20周年を機に、熊野古道伊勢路に関心を持った層をさらに惹きつけていくため。
○			熊野古道を歩くことを目的としたお客様が増えることで観光に繋がり、観光客増加が見込めるため。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	取り組みが一般の人には全く聞こえてこないので活動してるのかわからないです。 活動してるのもしれないですがその取り組みをしていると言うことを知らせるのも大事だと思います。 何をしてるのかもっとわかるように広報しないと時間とお金の無駄ではないかと思うのですが、、、。
		○	地域にとっては、昔から当たり前の環境であり、現状、興味を示さない方が多いと感じている。しかし、ふとした瞬間・きっかけにより、興味を示すようになる方がいるので、今後も地域の方にとっても価値があると感じていただく取り組みは重要。地域に愛される熊野古道でなければ、外部から見ても価値は下がってしまうと考えている。
	○		SNSの影響が大きくなっているので情報発信の方法に工夫が必要だと思う。 また、学校教育での学びについては少子化の影響もあり、目に見える成果が少ないように感じられる。
		○	現状、大学などの研究機関や熊野古道センターとの連携が不足しており、当地域の熊野古道が持つ価値を理解する取り組みが必要であると考えられるため。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			現在市内の熊野古道伊勢路はすべて舗装路となっており、当時がわかるものも残っていないので、取組を行うにしても元となるものがない。
		○	20周年で全体的に進んだが、過ぎた今、追加登録を考える上でも、世界遺産の価値基準への適合、その自然、信仰、文化を学ぶ機会が必要である。
○			より多くの人に価値を知ってもらいたい。（国外も含めて）
		○	かけがえのない地域遺産にあまり関心が寄せられていないように思います。単なる発信だけでなく発信に何かを付帯させた発信に変えて、関わる人の数や熱量を上げる取り組みを増やして欲しい。
	○		熊野古道伊勢路を知ってもらえるよう、継続して展示やイベントをすすめていく。
○			昨年度、「世界遺産登録20周年記念事業」に関連する事業（講演会、講座、展示等）の取り組みが、各位にて実施されていたため。
○			地域の活性化及び質の高いおもてなしや新しいサービス等が観光消費額の増加につながると考えるため
○			学校行事での学習会
○			地域が価値に気付いてないから
	○		熊野古道といえば？ 「（子ども達にとっては）熊野古道センター」、 「熊野古道を歩く人って増えてきてるの？」 家族に話を振ったところ、こうした返答が帰ってきました。 個々人の情報のアンテナの張り方に寄るでしょうが、正確な数値を知る必要がなくても、私の身内にはそういった実感が未だないというのが実情です。 紀州・尾鷲には『熊野古道』がある。その実感を持たせるために、『熊野古道センターでイベントをおこす』のではなく、直接熊野古道に触れる機会を持たせる事が大事なのではないかと感じます。
○			現在の活動を広めていく必要がある。
		○	熊野古道をまだ歩いたことが無い地域住民が多く、定期的にいくつかのコースを歩くツアーを企画し、外部からの来訪者に良さを伝えたり、もてなしができるようになると良い思う。また、子供たちに良さを気付いてもらうため、学校側に課外授業や遠足等の回数を増やせないか働きかけも必要と考える。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	全国的にオーバーツーリズムの問題もあるため 急激な旅行者の増加はリスクを伴う。現状、整備や保全を地域だけではまかなっていけないので、緩やかな周知にとどめるべき。
○			高齢化地域なので、関心が薄い。
○			地域の本質的な価値に即した生活や経済の活性化をしないと持続性がないと考えるから。
○			世界遺産登録20周年を祝ってのイベントが昨年末ぐらいからあり。地域の人々も熊野古道を意識していると思うので。
○			世界遺産登録後20年が経過し、登録当初より熊野古道への感心が低くなっていると感じたため。
○			テレビニュース等で「熊」。 これからも続くのが心配、、。
	○		まだまだ熊野古道のよさが地域や子どもたちに伝えられていない
	○		今後もより多くの人々に熊野古道の美しさの周知を行い、地域住民はじめ観光客の皆様に熊野古道の価値を理解してもらう必要があるため。また、伊勢路が海外の海外の巡礼道と比較しても歴史的に引けを取らない巡礼道であるということの価値に気付いてもらう必要があるため。
	○		商工会が関与する部分が、観光業の会員の業績上昇という観点になるので、関与しない項目が多い。 その中で古道を使った観光業、お土産品開発・販売を増やすためには、認知度強化が必要と考えます。
	○		行政主導から民間主導に変化が生まれない限り、大きな変化は望めないだろう。 やらないよりやった方がマシ、で現状維持
○			本質的な価値に気づく若い世代を増やし、保全活動を継承していく仕組み作りが今一番大切な時期だと考えているから。
		○	多気町はスペインのサンセバスチャンと食の連携をしているので、熊野古道でも連携を進めることができればと思う。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標１　「価値に気付く」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			人口減少の影響が強く出ているように思う。学校教育での学びについても統廃合や生徒数の減少が著しく、学校ぐるみでの伊勢路に関わる取り組み数が減っている。他地域からの修学旅行も減少した。バスク州との連携は20周年記念事業と熊野古道センターでの展示くらいで、継続的な交流事業や共通巡礼手帳などの取り組みには至っていない。観光情報やSNSなど気軽なものが中心で（間違った情報も配信されやすい）、その配信の基本情報となるしっかりした研究書が刊行されなくなった。みえ熊野学研究会が解散した影響が大きいと思われる。
○			どなた様も世界の遺産だ！と言うことをお忘れになったのでは！！この世界遺産を集客にもっと取り入れないと世界遺産がないている

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標２　「守り伝える」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			継続実施できる体制づくりが必要。 道普請は学校・団体は毎年来るリピーターも多く、次世代育成や地元の過疎化・高齢化が進んでも保全が出来るプログラムとして実施できる。
	○		北部地域の保存会ではどんどん高齢化が進むが、若い世代が入会してこないという状況が続いており、組織が弱体化する一方になっている。そして周辺では風力発電設備や太陽光発電設備が増々増えてきて、地域特有の文化的景観をも破壊しているのが現状です。行政や企業、住民も含めて三重県の文化を守り伝えるという方向性にシフトしないと伊勢路特有の文化は守れないのではないかと思います。
○			①熊野古道語り部友の会は旅行会社等から高い評価をいただき、依頼も絶えない。語り部の養成も続けていきたい。 ②保全活動のサポーターズクラブ参加者を増やしていく。
○			独りで女鬼峠をお歩きになったお客様から聞いた情報ですが、出発地点の大きな地図看板と、実際途中に立っている案内標示が少し違っているとおっしゃっていた。少し迷われたそうです。
○			地域の方にもっと説明が必要かもしれません。この古道の重要性。
	○		守り伝える関係者が少なくなっている。
○			熊野が熊野であり続けるために、その空気感、ブランドの確立は重要で、価値が高いことが守られる重要なファクターであると感じています。
	○		文化財保護の観点をふまえると活用と保全が両輪となるが、現実的には保全があってこそのその活用と考える。 今後の人口減少が担い手の高齢化問題を鑑みたとき、行政・民間を問わず、物理的な担い手不足を「解決」するのではなく、「緩和」する取組み（事業）に着手しなければならないと考える。
	○		保全団体の高齢化は顕著で、数年後でさえ不安でならない。仕組みから再考する必要がある様に思う。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標２　「守り伝える」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
	○		・2つの守るが存在するが、きちんとわけて考えるべき。古道の保全は定期的なものと不定期なものに分かれる。古道の維持管理の多くは定期的な日常管理に拠るところが大変大きい。しかし日常的管理を地域外に求めることは経費規模からいってほぼ不可能である。よって地域内でどのように定期的な日常管理を実施するかをまず検討すべき。例えば集落支援員（兼業）などで各自治体が手配することは可能であろうと思われる。 ・クラウドファンディングや寄付も悪くはないが高額が望めない。また十分な人件費があっても人はこないのが昨今の労働者不足である。 ・不定期なものに関しては企業の社会貢献活動や年数回のボランティア、関係人口者などによって比較的容易に募集できるはずである。他にもインバウンドや観光客に古道整備をさせるというプランもあるようである。一過性のイベントであれば十分集客の可能性があるが、指導者不足が課題である。指導者が不足すると文化財保護が難しいのではないかと感じる。 ・文化財保護の指針がきつすぎて、地域の方が独自に実施してきた古道保全が難しくなっているのを感じる。もっと手続きを簡易にした方がよいのではないか？国指定の文化財になり簡易な橋の架け替えにまで申請書が必要であれば誰も保全できなくなるし、多額の資金が必要になる。
○			熊野古道の語り部育成及び保全活動については、高齢化のため退会や活動休止に至っている団体がある一方で、語り部養成講座により新規人材の発掘や、後継者への世代交代が進んでいる団体もある。 定期的なパトロールや、ガイドの際に危険個所を発見した場合には、関係機関への連絡・報告が迅速に行われており、取組の成果が表れていると感じる。 他県の保全団体や県内のガイド団体との交流も行われ、その結果を保全活動やガイドに活かしている。
	○		保全活動は、抜本的進化は中々現状難しいと思います。伊勢路だけではなく、全国的に保全を行って頂いているボランタリーな団体様の高齢問題を抱えています。次世代の担い手（ボランティアではなく、事業として）の確保、保全を体験するエコツアー等、急務と考える。
○			東紀州の一番の宝にするため
○			先頭になる組織が先頭に立っていない。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標２　「守り伝える」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			文化財を保護していくことにより地域の文化的景観を守ることにもつながり、それらを保護しようとする活動や体験する機会が増加していくと思うため。
		○	教育旅行においても、企業等の体験ツアーにおいても、「世界遺産登録　熊野古道」より「産業（農林漁業等）体験」を目的としたメニューが増えてきたように感じる。 農林漁業体験は、収穫物は違っても全国である程度似た体験ができるが、「世界遺産熊野古道伊勢路」はこの地域限定という価値あるものなので、「三重と言えば熊野古道伊勢路」「東紀州と言えば熊野古道伊勢路」をもっと知ってもらいたい。
○			大杉谷自然学校様が昨年から実施されている「伊勢路巡礼復活プロジェクト」により、広域、多岐にわたる意識の共有が根付いてきていると感じます。 自身も、制作物の調査や個人的な歩き旅を重ねて得てきたノウハウを提供するという形でお手伝いさせてもらっています。
	○		保存関係者の高齢化に伴い、担い手不足は大きな問題である。
○			一斉クリーンアップ作戦の継続的な実施等により熊野古道伊勢路に関心・愛着を持つ人を増やしていくため。
	○		なにもしなければさらに過疎化になり人口が減るため
	○		世界遺産である熊野古道を維持するためには、守り伝えることは基本中の基本と考えるが、担い手の確保の課題があり、現状維持も厳しい面があると思うが、守り伝える取り組みについては、今より一歩前進させる必要はあると考えている。
	○		何も活動しなければ劣化してしまう。持続的に保護・保全をしていくためには地域の中だけではなく地域外からも含め、担い手をを育成や確保していく必要があると考える。
	○		熊野古道の保全は、観光資源としての利活用、後世に受け継ぐ上で必要であるが、現状では保全団体の高齢化が問題視されるため。
	○		現在市内の熊野古道伊勢路はすべて舗装路となっており、当時がわかるものも残っていないので、取組を行うにしても元となるものがない。 また、保全団体等もとくにないため。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標２　「守り伝える」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
	○		分科会で、保全について話し合ったことが良かったが、決めたことを進めていく必要がある。 近年、イノシシによる掘りおこしが多く、対策しなければならない。
	○		高齢化と共に守り伝える活動が減っていく心配がある。
		○	教育現場で歴史や社会的な意義にもっと現地で関わってもらう取り組みをして欲しい。地域の人たちともっと関わって欲しい。
		○	若い世代、子供達へより知ってもらうための誰もが参加しやすいイベントの強化
○			保全に関する活動は、これまで同様に実施していたと思われるため。「世界遺産登録20周年記念事業」に関連する事業についても、保全をメインテーマとしたものは、増えたとは感じられないため。
	○		保存会の方が高齢化により減少しているため
		○	町との協力
	○		守り伝える活動が伝わってこない
○			維持は、たゆまぬ継続による。これに尽きると思います。
	○		持続可能な保全体制づくりが道途上。
○			地元高校生を対象に保全活動体験を実施したり、来年度から熊野古道教育のカリキュラム導入に向け活動している。また、地元団体との共同作業も毎年実施している。会員の高齢化は否めないが、毎年高齢による退会者もいるが若年層の入会者もおり新陳代謝が図られ活動に支障ない状態である。 　問題点として、高校生の保全活動体験を控え県協議を進めているが、高校生参加者の昼食弁当代が出せないと、高校生にとってあまり魅力がないため、将来的に支出ができる仕組みが望まれます。
○			文化遺産としての価値は素晴らしく、保全していかなければならないものだと思います。地域の人材を中心に育てていくのは重要。
○			個人的には、今取り組まれている事があまり分からないので、そのように感じている方が多いのでは無いかと思うから。
	○		保全団体の高齢化、担い手不足
○			特に子どもたちや若い人に伝えていくことが重要
	○		現在、保全活動等を取り組んでいる団体構成員の方々の高齢化という大きな課題を解決・改善していく必要があるため。
○			（１）と同じく商工会として関与する部分が限られている。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標２　「守り伝える」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	保存団体の高齢化は増すばかりだろうと思います。民間で世界遺産の古道以外で、同じように地域に残っている古道を発掘したり、清掃したりする活動をおこなっているところがあります。 そういった取り組みも共有できるような組織づくりが必要ですが、ボランティアでは限界があると思われます。
		○	既存の情報発信手段だけではなく、若い方へ伝えていく情報発信手段の導入が必要だと考えるため。
○			保全団体と語り部友の会との連携が少し前進した。担い手確保は過疎高齢化の影響が著しく、継続しての強化が必要と思われる。 世界遺産追加登録に向けての県教育委員会の調査報告や、熊野古道センターや各文化施設の活動などによって、文化財への関心はやや前進したと感じる。
○			学校、地域等、みんなで世界遺産大切にするべき！ そうしていると、おのずと後継者が生まれてくる もっと地域の将来をしっかり考えないとだめになる 歩く人がどれだけのお金を落とすか！なんて考えていてはだめ 歩く人は神仏をまわる巡礼者ととらえるべき 地域の人のその気持ちが　人が　人を呼ぶ にぎやかになれば地域の人の気持ちが活性化される お金は大切だが、ここは世界遺産の巡礼道なんぞ！

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	伊勢路の本宮道などのウォーキング後、そのまま本宮大社にバスで向かうなど、参詣道の本質を体感できる形のイベント実施が地域にとって良いと思う。
	○		地域間の連携について、全然進展が感じられない。むしろ後退しているとも思える。それは主体となった部所がなく、中心となる人がいないからだと感じる。（南部、北部、又は南北の連携も通して） ☆地域間をまとめるのはフルタイムの仕事になるため片手間では出来ない。また、生活を支えるための活動と保全活動と両立出来ない。もっとボランティアという気楽な立場でやらないと同志は増やせない。
○			「新鹿みらいの町づくり」という移住者を増やし、地域住民との交流をはかろうとする活動に、京都大学の先生と学生が協力してくれている。新鹿の風景・古道・住民・その他を紹介し、東京の三重テラスでワークショップを10月末に行う。
	○		SNSでもっと発信し外国人を伊勢路へ呼び込む必要があるから
○			歩く人は増えていないのでは？
○			⑥分からない→伊勢から熊野にくるという考え方を活かしているか知らないが、そもそも伊勢は世界遺産には入っていないので、伊勢でやれば良くて、熊野は熊野で独立して考える方が自然であると思う。
	○		自治体間(三重県も含めた)でできる具体的な連携を実施するがある。(予算や体制の問題はあるが、現状でできる連携を)
○			旅行や観光だけでなく、地域との結びつきのある”旅”や”体験”なども、これからはもう少し比重を置いた方が良いと思うから。
		○	伊勢路は伊勢参宮と一体化してとらえるのが伊勢路にとって最も得策であるし、歴史上そうなのである。県の中でも文化財系と観光系で全く理解がことなっている。文化財系はもっと注目されてもっと応援されるべき。そして正しい認識を広めて伊勢路を和歌山まで結んで欲しいと考えている。観光系は文化系の勉強会に参加して正しい認識をすべき。 結ぶ場所がせめて伊勢から青岸渡寺にすべき。現代の巡礼とといってなんでもありでは世界遺産ではない。歴史認識を背景にすべきである。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	案内標識は「平成の一里塚」以外、統一感を感じられるものがまだ多くない。地域住民が独自に作成し設置しているものもある。 十数年前に東紀州地域内に設置した案内標識も、経年劣化で文字の判別が困難となっているものがあるが、設置団体が解散し現在の管理者が不明のため修繕が実施できていない。 トイレは既存の物は洋式便器への更新が行われ、バリアフリー化が進んでいると感じるが、トイレ自体が少ないので、可能な場所から設置をお願いしたい。 情報発信はYAMAPやヤマレコなどの登山アプリで各峠を歩いた人の記録があり、比較的新しい情報を得られるし、意見交換も行われていると思う。 世界遺産登録時の平成16年に、伊勢神宮から熊野本宮大社まで７泊8日で踏破するウォークが行われ、とても好評だったと記憶している。 スタッフの労力は大変だが、本当の意味での踏破なのでまた企画してほしい。 以前は三重県のホームページに「踏破の記録」が掲載されていたが、現在は削除されているので復活を検討してほしい。
○			来訪者に一度だけではなく、リピートしていただきたいと強く思う。伊勢路は守られてきたい素晴らしい景観が残っているが、景観だけでなく、地元の人々が紡ぎ続けてきた文化、伝統、生業等の物語（ストーリー）を来訪者に伝えることにより、来なければ伝わらない五感へのアプローチを拡散していただく等の施策も重要と考える。
○			東紀州の一番の宝にするため
		○	ルートスパンを少し短く、交通の便を良くする。
		○	保全活動や地域の情報発信といった活動を行うことにより自身の住む地域だけではなく、地域間の連携や賑わいといった交流の機会になり、より文化財に触れる機会を増やすことに繋がるから。
		○	せっかく２０周年で多くの方が熊野古道に興味を持たれたと思うので、今後も持続させていきたい。 「つながって　熊野古道伊勢路」というおもしろさは、地域間連携によって伝わると思うので、積極的に取り組んでほしい。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
		○	8年前の赤白道標、昨年からの大杉谷自然学校による巡礼プロジェクトなど、伊勢路をつなぐしくみは年々強化され、またスルーハイカーによるSNS発信などもあって一本の巡礼道という意識はとても高まっています。 伊勢路には続きがあります。西国巡礼道として名を変え、和歌山、大阪など他府県へともつながります。いずれはこういった他府県との連携も徐々にできていければ幸いです。
○			一連の流れがあることで三県に渡っての観光客増に繋がると考える。
○			環境整備総合補助金の活用によるハード面の整備により、安全・安心に歩くことができる環境づくりを引き続き行うため。
○			熊野古道を歩くことを目的としたお客様が増えることで観光に繋がり、観光客増加が見込めるため。
	○		取り組みとして大事なのはわかるのですが、何か方向性とやり方が違うのではないかと思ってしまいます。 意見を押し付けるのではなくて、地元の意見を聞いて汲み取るということが大事なような気がします。
		○	伊勢路全域が良好な状態で、利用されていることが理想と考えるが、必ずしも全踏破をどんどん進めるものでもないと考えている。しかし、点検、伊勢路全体の状況把握の意味でも、年に１回はどこかが全踏破のツアーが組まれていることが理想。語り部が高齢化などで不足しているなど課題が見つかるような取り組みがあればよいと考えるため現状維持とした。
	○		トイレの整備や宿泊場所の確保は集客につながる整備箇所である。また、個人旅行者が駐車場へ戻る手段がないと途中で折り返せざるを得なくなり、顧客満足度が上がらない。
	○		熊野古道に来訪してもらう交通手段や仕掛けづくりが不十分であり、市町単独で集客を目指すよりも古道沿線地域との連携を通じた取り組みが必要であるため。
○			現在市内の熊野古道伊勢路はすべて舗装路となっており、当時がわかるものも残っていないので、取組を行うにしても元となるものがない。
○			昨年、県 踏破ウォークも行われ、同時に整備も進んだと思います。今後、インバウンドも含め、情報発信が必要な分野といえる。
○			地域の発展にもつながり、活気が出る。
		○	案内関連のものは、三県間で共通の統一したものにしていただきたい。分かりにくい。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			他の地域との連携を強化する
○			統一感のある案内標識等、踏破ウォークの実施の活動が目についた。南部地域は熊野古道は観光要素であるため、今後も活用を強化を望む。
○			踏破することによって「点」の観光から「線」の観光へ発展させ経済効果を広域化するため
○			必要だから
○			主に通して歩く事にだけを目的としている方が多いように思う 地域との交流をする人は少ない。
	○		身内から「スタンプラリーなんかやってたんだー」という第一声が聞こえてきました。 鳥取県境港市に『水木しげるロード』という商店街がありますが、ほとんどの商店がお店の『手前』と『奥』に二層化されています。 道なりに見える『手前』の棚は観光客向けの『お土産売り場』、『奥』の棚には地元向けの『お店の商品（八百屋なら野菜、本屋なら書籍）』が売られています。 パンフレットや休憩所だけでは超えられない影響力。何処かで、市民ぐるみのカタチが求められるのでは…と考えます。
○			①トイレ等周辺環境の整備が進んでいない。 ②周辺スポットを含めた受付体制ができていない。
		○	世界遺産登録済の各熊野古道でも交通アクセスが悪い所が多く、一回で全踏破する人はなかなかいない中、働き盛りの人でも休暇を利用して何回も来訪して踏破できるような交通の充実が望まれる。 また、インバウンドの利用が増加する中、相変わらずトイレが少ない、洋式が無く高齢者に不親切等の問題がまだまだ解決されていない。
	○		地域人口が減少する以上、地域連携の強化は必須。 可能な限りの交通網の整備なども重要。
	○		強化してより多くの人が歩いてこそ、路が生かされると思うけれど、今、中辺路がオーバーツーリズムである事を受けて、そこから長期的に何をすべきかを学んだうえで取り組みを始めるべきだと思うから。
○			地域との連携を強化すれば、まだまだ活性化できるポテンシャルがあると思ったため。
○			住民参加のプログラムを充実させる
○			熊野古道伊勢路周辺の自治体における観光客の受け入れ態勢の強化・改善が必要なため。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	目標３「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」 ③　②でそうお答えになった理由は何ですか。
○			やらないより、やった方がマシ。程度だと思います。 取り組みが一時的であったり、一般社団法人東紀州地域振興公社の取り組みなどが見えにくいのもその要因かと思います。
	○		地域としても「巡礼の道」として意識し、来訪者を「巡礼者」としておもてなしする風土づくりが必要と考えるため。
	○		伊勢路はソフト面は得意だが、ハード面は不得意だと思う。トイレは出来るところから少しずつ改善しようとする姿勢は理解できるが、県土整備や災害対策などの予算で抜本的な改善はできないか？峠の東屋は変化なし。
	○		少子高齢化のこの地域の20年後をしっかり考えて行動すべき今

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	・地域を超えた取組を増やす（前述したが） 　例　三重ー和歌山連繋ツアー 　　伊勢路の風伝峠ー本宮道ー本宮大社とか、参詣道であることが分かるストーリーをもったツアーにする ・追加登録候補地のイベントを積極的に開催する ・各地点の特色を強調して売り出すよう意識する どの道も同じように見えてしまうと来訪者に魅力が届きづらい。
○			各峠をまもる会の会員と共に保全等を頑張る。
○			伊勢路のコースの全体の宿や弁当が買える所のマップ
	○		熊野古道伊勢路を、世界の文化遺産として保存することを約束したのだから、保存できる体制をもう一度見直すべきだと思う。現状では、ボランティアが主体の保存会にあまりにも期待をかけすぎて、新しく入会する人すらいなくなっているのが現状です。世界遺産登録には県や市町の行政も、積極的に働きかけて登録が実現した訳だから、実働面での支援が必要になると思う。特に最近では、取りまく環境も変化してしてきて、クマの出没という作業の安全を脅かす事態も増えており、現状を継続させていくことは困難になっていると思う。また、保全技術の伝承も危惧されるため、根幹である保全部門を統括して管理する部署を立ち上げてもらいたい。
		○	20周年の時、東紀州振興公社が二木島・逢神坂峠で保全体験ツアーを２本ほど企画した。一般の人が金を支払って参加する「保全体験ツアー」を事業化して、年間10本、20本と企画してほしい。
○			五桂池に車を停めて、女鬼峠を歩いて戻って来られる方が多いのですが、時々相鹿瀬から、柳原へのルートを聞かれることがあると、「多気ー大台」のウォーキング地図は少ないため、困ります。
○			韓国とのコラボで、映画を作ろうとしています。県にも協力して頂きたいと思います。
	○		中辺路に比べ歩く人は増えずPRが足りないのでは。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	スペインを歩く人からは、熊野古道は短いと言われて久しいし、和歌山から三重に行くと、途端に英語の情報が少なくなると苦情を聞いているが、改善の気配がしない。保全は守るだけでなく、新たな価値観の創造も必要である。スペインは30日かけて歩くが、伊勢路だと６日で歩けるという現実を感じて欲しい。熊野三山は和歌山にあるし、高野山も和歌山である。道を歩くのは通常右回りで、左回りは人の本質としていないのが原理であるので、天満橋から伊勢、もしくは、京都に戻る周遊を考えるくらいの視野の広さを求めたい。
		○	同じ古道沿線であっても自治体規模や予算・体制の差異から生じる古道の保全に対する認識の温度差が小さくなるよう定期的なミニ会議をもち、行政間の連携強化を図るべきと考える。
	○		熊野古道を使って、アウトドアインストラクターやトレイルガイド、民泊やゲストハウスなど、若者が収益を上げれる様にしていくことが重要だと思います。保全をするにも、そもそも地域には若者が少ない。世界遺産熊野古道は、過疎という地域課題を解決しながらでないと、存続させ続けるの難しいと思う。
		○	（１）熊野参詣道伊勢路は伊勢参宮の後、西国巡礼に赴いた道という認識をきちんと県下に広める。熊野で巡礼者が雲散霧消するわけではなく、巡礼者は熊野から１番、2番、3番と33番札所まで参っていた。何千キロにも及んだ日本が誇る江戸時代の旅文化が色濃く残る伊勢参詣や熊野参詣道伊勢路をもっと誇りに感じるべき。 ※西国巡礼路は日本遺産であり、そことの連携も模索してもよい。西国巡礼はサンティアゴ巡礼路とも連携している。 （２）全体のプランニングは各市町や団体に任せるより、どこかがしっかりとリーダーシップをとった方がよい。例えば伊勢路は江戸時代の道であるというコンセプト作りとか各市町の旅籠を大事にする、伊勢路は赤い笈摺、江戸装束など。大台町と紀北町のコンセプトを見本に全体としてまとまらないと本来の力が出せない。今はばらばら感がある。プランニングは県教委にお願いしたい。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	※続き （３）熊野古道伊勢路DMOの設立 熊野古道伊勢路を県境を越えて青岸渡寺まで結ぶには民間団体がないと難しいのではないか？県が主導してするには限界があるため、北部に熊野古道伊勢路DMOの事務局を設立させるのはどうか？※南は東紀州DMOが既に存在するが、負担金の問題から北部は積極的には扱えないため。 （４）伊勢路には地域の人が巡礼者を庇護し、旅を続けられるように祈った石仏や観音堂、善根宿跡が随所に残る。また現在の人々の気風にもその優しさが引き継がれている。また旅を続けられなくなった巡礼者を抱えた場合の貧しかった地域の負担の重さや苦労も地域には存在していた。熊野古道伊勢路の本質を深く理解することこそ、地域の優しさ若い世代に引き継げる唯一の方法である。「祈りの道」という安易で便利な表現に集約することがないようにすべき。
	○		若い世代が世界遺産熊野古道への関心が薄いと感じます。 児童・生徒には学校の授業やクラブ活動を通して世界遺産の価値を伝え、語り部や保全活動に興味を持ってもらえればと思います。
		○	熊野古道同士（伊勢路、中辺路、大辺路、小辺路）の連携、相互の広報活動。 宿泊施設の確保、保全団体との保全活動の紹介や体験ツアーの造成。 自然のすばらしさだけでなく、文化、歴史、地域の生業などを教育的かつエンターテーメントに伝える”インタープリター”の育成。
○			インバウンド誘客を見据えた宿泊、搬送、トイレ、給水、食事などを総合的に管理発信できるシステムの構築が必要。また、民間（住民）が潤うことが前提として組み込む。
		○	伊勢路170㎞の保全活動をしているグループは15グループ程度だと思いますが、その活動エリアはそれぞれの行政区域内です。中には高齢化で消滅寸前グループもあると思います。この現状を打破するには、年間1億円くらいの予算をつけるべきです。それから地域から地域へとつなぐリレーウォークをもう一度考えるべきです。
		○	アプローチを良くするのと、語り部がいなくても、AIの案内で済み、誰でも歩けるようにする。 WCの設置は重要です。
		○	SNSの発信 魅力的なポスターの製作など、美しい古道の様子を見て、興味を持ってほしいですね。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について 　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。 　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
	○		今後取り組むべきことは、地域の文化を知る機会を増やすことである。地域にあっても知られていない文化財や行事があると考えられるため、知る機会を増やすことが必要だと思う。
○			「熊野古道」「文化」「歴史」等に関心の薄い層にも、価値や良さを伝え、裾野を広げることが必要不可欠。 素人でも参加しやすい勉強会や保全体験、ウォーキングイベントの実施。
○			熊野古道伊勢路に関わる人々の職業や立場は様々です。 それぞれの人が仕事や専門分野を活かしながら、無理のないように伊勢路維持に取り組めればと思います。 自分自身はイラストレーター、デザイナー、歩き旅アドバイザーとして、この道をビジュアル的に俯瞰し、道のあるべき姿を実感してより「歩いてみたい」という人を増やせるよう取り組んでいます。
	○		保全団体の高齢化と担い手不足の問題が大きく、今後どのように保全を行っていけばよいかを検討しないといけない。
		○	資金確保の手法が多様化する中、行政が予算確保に努めることはもとより、行政以外の主体によるクラウドファンディングのさらなる活用も注力すべきと考える。
		○	教育を見直し外部から移住したくなるような学校作りを目指し、若い世代の育成をすればいいと思います。
	○		地元で生活してると地域活動やいろんな面で高齢化や人手不足を感じてしまいます。活動を行うにしても活動する人がいなくなりつつあるように感じるので、意見やアイデアを汲み取って、活動自体は別の団体や事業者にお願いするという形でないとこれから活動自体できないのではないかと思います。 地元の事業者にしても自分の事業ありきでやってるので他の活動を頼まれても仕事に支障がでて出来ない場合が多いのではないか。
	○		熊野古道は道であるため維持管理が必要であるが、人口減少が顕著なこの地域の方々に頼るには限界がきている。本宮・中辺路あたりでは、道普請の取り組みでたくさんの民間企業がどんどん参加してきている。民間企業としても社会貢献活動が求められている現在、伊勢路についても、民間企業が参加することでメリット（SDGｓに貢献しているなどイメージアップにつながる）が見いだせる活動が出来ると良いと考えている。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について 　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。 　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	広域的に地域が連携して魅力発信やツアーとしてバスなどの送迎を含んだ企画があれば顧客満足度の向上につながると思いました。
	○		保全に関して、大台町でも保全団体の高齢化が問題となっている。若い世代の担い手確保が急務であるが、それが難しい場合は外部委託を行うための予算を充て、保全に取り組んでいくべきであると考える。そうならないためにも、熊野古道の世界遺産追加登録に向けて早急に取り組み、町民の熊野古道に関する意識を高めることが重要である。
○			現在市内の熊野古道伊勢路はすべて舗装路となっており、当時がわかるものも残っていないので、取組を行うにしても元となるものがない。 また、活動グループや保全団体もとくにないため、協働で取組を行うにしても１からとなるため、現状では難しい。
	○		20周年が過ぎ、踏破を本格的に進められる段階と考えます。 そして、できる限り、道をつなげ、残すため、追加登録を目指すべきです。 また、保全については、大事であり、続くようにすべきで、情報交換やサポーターズクラブとの協働など、それぞれの取組が必要です。 橋や倒木、トイレの維持など、大きなことは、予算確保など行政の取組もお願いしたい。
○			常に目に見える形ですすめることが、意識高揚につながると思う。情報提供を多くし合う。
	○		南部地域は雇用経済発展のため開発は必要であるが、保全面からの景観配慮への規制が厳しすぎるのではないだろうか。経済発展も地域文化のひとつであると思われるので、関係機関に対して理解を求めていただきたい。 また、保全活動団体は高齢化、会員数の減少に悩んでいるため、サポート強化を図っていただきたい（金銭面だけでなく、市町を超えた相互協力や地域住民の参加協力など）。
	○		熊野古道を「守る、体験させる、地域の力にすること」で魅力を向上させることが、関係人口や地域の人材を増やすことに繋がると考える

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	地域で休憩所などを作り、Gマップに表記し、地域で活動し守っていく。 歩く人は交流は少なく、余裕がない様です。 住民が古道歩きの方に声がけを積極的にする。
○			現状維持
		○	テレビ等の番組効果がまだまだあると思う 話題を地域住民が自ら生み出し テレビ低迷の時期こそ youtube、SNSへの移行傾向だからこそ真逆のNHK効果 紀伊半島の番組をどんどん報道宣伝のチャンスだと思います。
		○	①持続可能な保全体制づくり ②保全活動の商品化 ③古道周辺のスポット（便石山など）の受入体制整備 ④追加登録の推進
	○		自治体職員等の熊野古道教育の実施が望まれる。　保全団体に任せっぱなしになっており、実際に古道散策したり、保全活動の体験をすることにより情報発信も正確に行えるし、良さをアピールすることができると考える。
		○	踏破を目的とした全体的な整備はハードルが高い。何度も訪れてもらえる仕組みづくりを進めていってほしい。 永く保全すること、短期的な体験を可能にする交通網や周辺環境整備すること、の２点をバランスよく考えることが良いと思います。
○			地域にとって良い方向とは？という答えが人それぞれ違うと思うので、答えは難しいと思いますが、個人的には、地域住民が地域の文化遺産を誇りに思って大切にしてこそ、どんな取り組みも持続すると思います。ですので、100年後にも世界に誇れる文化遺産とそれを誇りに思い守り継承している住民がここにあるにはどうしたらよいか、という視点に立って、より多くの人を巻き込んで、やるべき事を自分ごとで考える機会作りが必要なのでは無いかと思います。
	○		熊野古道伊勢路の価値をもっと地域住民が認識する取り組みが必要だと思います。
		○	長期滞在型のプログラム、又は６カ月かけて伊勢路を踏破するプログラムなど策定 モデルケースへの件の補助金の確保（住民参加も含めて）

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**２　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	近年、大阪・関西万博の開催を皮切りに、我が国のインバウンド需要は高まりつつある。また、三重県においても令和１５年の式年遷宮を見据えた行事が今年度より執り行われつつあり、伊勢地域の観光需要の高まりも予想される。しかしながら、県内観光客の多くは県内宿泊をともわない観光の傾向が強く、東紀州地域までその恩恵をあずかれていないことが現状である。 そのような現状を踏まえ、来県者に選ばれる観光地としての東紀州地域の確立が望まれる。東紀州地域は、熊野古道伊勢路をはじめとした文化的景観をもつ歴史遺産も存在する。また、熊野古道伊勢路の景観を保つためにも引き続き補修・保全等を行っていく必要がある。しかしながら、現在まで補修・保全等を行ってくれていた団体の構成員の方々の高齢化が進み、活動量が年々低下してきている。また、当地域の高齢化率は非常に高い状態であり、活動の世代交代が行われていないことが現状である。 そこで我々行政側からの支援策として、現地の庁舎等に勤める若手職員を中心に地域住民、事業者の皆様たちと連携し、今まで地域の力で担ってきた役割を今後は官民共同で担うことが、求められる支援策ではないだろうか。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	１．計画の内容について 商工会もそうですが、行政がかかわると内容が固くなりがち。どこでもやっていることを後追いしているだけのため、爆発的な効果は見込めない。 各方面に満遍なく配慮が必要なため尖った企画は立てにくい。 一方、民間は短期間に効果を求める。財務的な体力も人材の配布も余力がないので、効果が見込めるなら協力するといった感じだと思います。 であれば、特定のところ（おそらく宿泊業、観光関連業）で効果がでる計画を考えたほうがよいのではないでしょうか。 特定のところに注力すると、あそこだけズルいという意見が出てきますが、特定のところから地域に波及効果があるなら十分ではないかと考えます。 ２．計画の変更及び成否の判断 計画を進める中で、変更の判断を、都度、会全体にかけなくても変更できるシステムがいるのでは無いでしょうか。 また、計画が失敗しているなら、素早く中止を判断し、止められるシステムも必要ではないかと考えます。 また、委員は内容を、効果について疑問があっても、対案があるわけでなく、この計画はやめましょうとはなかなか言いにくいです。 事務局のほうが、計画を続行すべきか、撤退すべきかはよくご存じかと思います。 商工会も計画の中途変更が難しい組織のため、上記のことがうまく出来ているとは言えないのですが、計画がうまく進まないときは、いつも悩んでおります。
	○		インバウンドだけが良いとは思いませんが、和歌山県側との差を感じます。活動グループや、住民、事業者に利益が生まれる仕組みがなければ、継続もボランティア参加も難しくなると思います。 ただ、英語に特化した語り部でイキイキとしながら活動している方もいますし、現場からの声をもっと吸い上げ、問題点を解決にむけて動くことで、随分と変わるのではないかと思います。 行政は、担当者によって変わってしまうことなく、継続して引き継ぐ運用が重要と思います。
		○	若い世代、特に地域の高校生に価値を気づいてもらい、守り伝えていく必要があると感じる方を一人でも増やしていく必要があり、学校と連携して、一時的な体験だけではなく、歴史から保全まで一連の地域の教育プログラムにきちんと位置付ける取り組みが必要だと考える。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**2　今後の取組方向について** **　これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。** **　また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。**
		○	・世界遺産追加登録に向けての保全と活用の分科会をつくり、アクションプログラムの策定に繋げるとよい。 ・伊勢路ならではの差別化した外国人誘客につながるとよい。例えばバスク州との連携を深めて共通巡礼手帳を作り、北の道と伊勢路の共通のウェブサイトを作成し、来る人数は少なくてもいいので（たくさん来られても困る）、住民とのよい交流になりファンが増えて価値が向上し、そのファンたちが保全に関われる仕組みをつくっていく。保全協力金という形と、保全活動に関わる形と、両方つくるとよい。 ・観光部、文化振興課、農産地域づくり推進課、交通政策課なども協働会議に出席して、横の繋がりをつくってはどうか？東紀州振興課と教育委員会だけでは限界があると思う。 ・近年の協働会議は似た顔ぶれになっている。地域の他業種、法人、イベント関係、もてなし処、ホテルなど、多様な意見を聞くべきと思う。以前は個別に声をかけてでも出席者を増やしていた。
		○	神仏の宣伝より、自然崇拝的な分野がインバウンド向け 日本人は長期休養を歩くためにしないと思う 神仏を感じ、自然のエネルギーをもらい歩く旅の巡礼としてとらえるべし そしてむかえる気持ちをもつ 行政も地域も本当に人を呼ぼうと思っているのか　疑問 まずは多国語であいさつできるような子どもたちを育てたい 地域全体がすべてあいさつできるような街づくりを目指したい。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	3　その他 「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。
		○	世界遺産と周辺のおすすめ地点を歩くためのアプローチ施設（駐車場・トイレ・休憩所）を整備して、分かりやすく周知する。駐車スペースのある施設に入った時には周辺の同様の施設がどこにあるか知りたいし、参詣道でトイレに入った時は、次のトイレが何キロ・何分先にあるのか知りたくなると思うので、表示した方が良いと思う。
		○	外国人の予約の体制がほしいです。来てからはアプリで対応できますが。
	○		・カンバン、案内不足 ・情報発信不足
	○		アクションプログラムでは、参加する全員が一定の方向をめざして取り組みや活動をしていかなければいけない。しかし、全員が目指すべき方向性の部分で「伊勢路の本質」という抽象的な表現が出てくるため、統一した方向で取組ができていないと感じる。本質には様々な解釈ができてしまう。何度も出すのが煩わしいならば、本質の定義は何かをどこかに注記しておけばよいのではないかと思う。仮に、信仰や宗教的な要素であれば、公務員や学校ではジンクスとして出しにくい所もあるが、千年を超える歴史の中で、それをさけていけば違う方向に進む事になってしまうと思う。
○			熊野古道協働会議を伊勢との中間点で開催できないでしょうか。
○			そういう意味で四国は順打ちと逆打ちがあるので、熊野古道は伊勢から熊野という価値観はあくまで歴史的価値であり、道の意味を考えれば、右も左も歩けるのが本質なので、両方共歩く事が、古道を守る正しいやり方だと思います。伊勢から熊野にしか歩かないなどという証拠のない言論は歴史的には考える必要があり、そうであるのであれば、学術の所で語っていただきたいと思います。
	○		熊野古道の成り立ちをふまえるとその保全を恒常的なものにするためには、自治体間の具体的な連携が必須と考える。
		○	２の続きのようになるが、熊野古道で稼いで暮らせる若者を多くつくっていかないと、今後は保全整備が難しくなるので、仕組みづくりが必要だと思う。
○			意見はできれば全部参加者に共有していただきたいです。意味が間違って解釈される恐れがないレベルであれば編集していただいても大丈夫です。もし不可能であれば前回のように資料つくっていきますからご連絡ください。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	3　その他 「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。
		○	世界遺産としての知名度は欧米でも上がってきている。アクセスや滞在に不安を感じない、ゆっくり長く滞在できる熊野古道と周辺にしていきたい
○			私は都市での生活を切り上げ、ふるさとに帰ったのですが、次の年に伊勢路が世界遺産に登録されました。私のこれからの人生の半分は熊野古道の保全、おもてなし、旅に位置付けました。伊勢路は３回通して歩き、本宮道も２回歩きました。エリア内の峠道は数えきれないほど歩きました。しかし、高齢となり体力がなく、立ち寄る旅人のおもてなしだけ続けております。このような地域生活者が望むことは①旅人が安全に歩ける道、②旅人と地域生活者が自然にふれあう、③沿道生活者、地域生活者の精神的宝の確立です。
○			機会あれば、子どもたちと歩きたいと計画してます。
○			各地域、各分野の理解者が一人減り二人減りして、それぞれの活動が行き詰まってしまっている今、 「熊野古道や世界遺産がなくてもこの地域は変わらない」「誰かがしてくれる」「どうにかなる」・・・という考え方をなくすための取り組みが必要となってきているのでは。
		○	せっかく三重県が令和元年に「世界遺産の巡礼道を生かした協力・連携に関する覚書」を締結しているのですから、バスク地方を通る巡礼道「北の道」との連携をもっと強化していく仕組みを作ってほしいと切に願います。 自身も現地へ足を運んだり、写真やイラスト展を通じて双方の道の魅力を多くの人に知っていただく企画をさせていただいておりますが、どうしても民間、個人だけの力では限界があります。
		○	歴史や文化を深く学べるよう、専門的な知識を持った語り部の育成と配置を充実させてほしい。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	3　その他 「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。
		○	私が知らないだけかもしれないのですが、アクションプログラムは何をやっているのかわかりにくいので意見しにくい。 なので、もう少しPR活動をした方がいいのではないかと思います。 熊野古道の取り組みは県単位ではなく、全部をまとめて一つの協議会を作ってそこで事業の取り組みをした方がいいのではないかと思います。県単位でマップや案内はあるのですが他県の情報が全く入ってこないのでお客さんに案内できません。 お客様目線での取り組みをしないと成果が上がりにくい気がします。 上から目線ではなくもう少し下から見ての取り組みを
○			吉野熊野国立公園と熊野古道は重なる部分がほとんどないが、紀伊半島の自然環境を一体的に保護・保全していくという点で、連携することは重要だと考えている。
	○		伊勢路への更なる誘客が期待される世界遺産登録 25 周年の令和11年までに、保全に対する体制を強化していきたい。 現状、熊野古道伊勢路の北部、世界遺産未登録の地域では、熊野古道の観光資源としての活用が不十分であり、地元からの知名度も低い状況。地域への経済波及効果も薄く、古道沿線の南北でも温度差があるように思う。そのため、古道の来訪者が地域にお金を落とす仕組みが必要。（例えば、パッケージツアーを誘致するなど団体客を積極的に招き、古道を含めた周辺地域を周遊してもらうなど） また、古道沿線で気軽に立ち寄れるスポットを拡充し、少しでもお金を落としてもらう必要があり、県として画一的な媒体があれば、効果的にPR出来ると思う。
		○	・民泊にインバウンドが増えてきているが、全体として宿泊施設の不足が気になる。 ・外国向けの情報発信をより増やしてはどうか。
		○	整備他、維持していくのは大変だと感じる。 休憩所、バス、JRの場所や時刻表がまとめられたマップがあるとよい。
○			今後も、地域とともに実施する、熊野古道の継承、保全、活用に向けた活動を期待しております。
○			お客様が古道の道標が小さくて夕方や雨の日は見えないと言っています。

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	**3　その他** **「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。**
○			20周年でイベントが多かったことはよかったです。 イベントを目的で海外からの来日者、花火大会以外で宿泊者が増加した実感はありませんでした
○			熊野古道を歩く尾鷲市民全員に、「現在のこの道が、かつての熊野古道です」と言えるように周知してもらう。
		○	古道（コアゾーン）の獣害が増えている。 獣の駆除と獣害に強い補修方法の検討が必要である。
○			伊勢路全体の保全を統括する組織づくりについて、紀南エリアの組織結成に向け一部で動いたが、未結成場所や人材不足、各団体の活動方法や意見が合わない等の問題があり、進展が難しい状況である。
○			恥ずかしながら、熊野古道アクションプログラムをあまり知りませんでした。
○			「熊野アクションプログラム」という言葉を初めて知りました。
○			古道歩きを予定している方からは、熊に関する質問が多いです。 全国ニュースで毎日のように熊関連のニュースが流れやはり関心が高いかな、と思います。
○			年に２～３回古道センターにおじゃましています。 孫が熱心に観ていると嬉しくて、又、行きたくなります（小五、小三、３才）
○			古道歩きは、外国人など長期滞在の人が多い。 日本人は休暇が少なく、古道歩きのプログラムに参加しにくい。 働き方をはじめ、長期休暇制度へのはたらきかけ。 子どもや住民をまきこんだ、古道にぎわい計画、イベントをくむなど地域あげて古道を守り活用するプログラムを作ることが必要。 古道案内人（日本語、外国語も含め）を増やす

情報共有・その他	課題提起	提案・要望	3　その他 「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。
	○		・観光客が求めるもの住民の求めるもの 観光客が「田舎に都会的ではない不便なものを楽しみたい」、現地住民が「便利な暮らしをしたい」を考えた場合、観光客は「非日常体験」や「自然の景色」が見たいなら、現地までの道路整備や施設建築はしても問題ないと考えます。 住民（特に若年層）は不便な暮らしを厭い、人口流出・減少が続いています。世界遺産のために不便な生活を強いることがないようにお願いしたいと思います。 不便な生活の例：紀宝町は熊野川を挟んで三重県と和歌山県の県境にありますが、和歌山県では道路の整備が進み見える景色（三重県側）は美しい景色となっています。一方、三重県側から和歌山県を見ると道路が川にはみ出し、工場が立つ景色となっております。また、三重県側は県が作った景観条例で建設・建築に制限がかかっており、道路の幅が狭く痛んでいるなど、交通、設備ともにさびれた状態となっています。熊野古道の保全だけが目的なら、これで問題ないでしょうが、地域の活性化を図ることが目的に含まれるなら、その辺の配慮もお願いします。
	○		世界遺産としての熊野古道の今後も大切だが、世界遺産に登録するときにご尽力いただいた方々のことが忘れ去られているように思えます。 どうのような経緯で登録がされたいったかなど、そこに関わった人の記録を残すことも大切だと思います。
	○		クラウドファンディング含めた資金の確保体制についても整理が必要ではないか。
○			官民協働でぶれずに活動する指針となるアクションプログラムは非常に重要であり、世界に誇れる取り組みです。全国の他の世界遺産登録地域は真似したくてもできません。20年以上前に先駆的に取り組んだ県職員や関係者の方々に敬意を表します。くれぐれもコンサル任せにせず、粘り強く伊勢路ならではの取り組みを続けていきましょう。
○			世界遺産である熊野古道は たくさんの人に歩いてもらってこそナンボ！ 世界に向け、国内に向け、窓口となる専門の組織を作るべし